イチジクヒトリモドキ

○被害と発生生態

ヤガ科に属する南方系の蛾で、イチジクを食害する。若齢幼虫は集合性が強く、葉裏に群生し表皮を残して食害する。発育が進むにつれて分散し、太い葉脈を残して葉をほとんど食い尽くす。葉が少なくなると果皮も食害する。幼虫は老熟すると地表面に降り、土中の浅いところで土まゆを作って蛹化する。年４世代を経過し、蛹の状態で越冬するとされている。

成虫は、開帳約 60mm、前翅が褐色の地色に橙黄色、黒色、白色の斑紋、後翅は黄色の地色に黒色の斑紋がある。卵は淡黄色で葉裏に数十個の卵塊として産み付けられる。若～中齢幼虫は、頭部が黒色、胴部背面は全体に白っぽく、体の側面は橙色である。老齢幼虫は頭部がツヤのある黒色、胴体背面は灰色がかった黒色で腹面は橙色である。白く長い刺毛が生えており、刺毛基部は橙黄色である。体長に４㎝に達する。

○防除方法

（ア）耕種・物理的防除

幼虫が葉裏に群生する発生初期に、寄生葉を取り除いて処分する。

（イ）薬剤防除

果樹のケムシ類に適用のあるＢＴ剤（デルフィン顆粒水和剤等）を幼虫の発生初期に散布する。

イチジクの被害

成虫

老齢幼虫

中齢幼虫